

第5章 教材の構造を見きわめる

課題分析：教材のゴール（学習目標）として設定した学習目標をマスターするために必要な要素とその関係を明らかにする方法

- ・ 詰め込みすぎない、無駄なく無理のない教材の骨格づくりに役立つ。
- ・ 教材の出口（学習目標）にたどりつくためのひとつひとつの要素とその関係を明らかにしていく。
- ・ 学習課題の種類ごとに手法は異なる

学習課題の種類と課題分析

学習課題	言語情報	知的技能	運動技能	態度
分析方法	クラスター分析	階層分析	手順分析	階層 / 手順分析 クラスター分析
手法	効率のよく暗記するために、関連のある項目や紛らわしいものどうしを集める。上下関係とは限らない。 【かたまり型】	学習目標（上）から下位の目標にむかって、教材を使用するための前提条件までの目標を探し出す。 【ピラミッド型】	学習目標の運動技能を実現するために練習できるステップに分解する。ステップごとに知的技能などの下位目標が必要な場合もある。 【ステップ型】	目標とする気持ちに関連した言語情報や知的技能をみつけ、選択の理由を問うことで態度形成に必要な技能をみつける。 【複合型】

出入り口の再チェック

課題分析図のチェック 教材の出入り口（学習目標と前提条件）の再確認

- ・ 1時間で学習できるか？
- ・ テストではまんべんなく出題されているか？問題数は適切か？
- ・ 教材の出入り口にギャップはありすぎないか？